

学校番号	学校名	校長名
24	川崎市立西御幸小学校	柴田 薫

学校教育目標	今年度の重点目標
A 進んで学ぶ子【確かな学力】 B 思いやりのある子【豊かな人間性・社会性】 C 健康でたくましい子【心身の健康・体力】	A-1 一人ひとりがよくわかり、生涯に渡って学ぶ楽しさを感じる授業の展開 A-2 GIGAスクール構想ステップ3実現における一人一台端末の効果的な利用と情報モラル教育の推進 B-1 一人ひとりが自分を大切にするとともに他者を大切にできるような人権尊重教育の推進 B-2 学校という場に愛着をもち一人ひとりが学校という社会に積極的に参加しようとする意欲の喚起 C-1 体力向上を図る教育活動の工夫 C-2 安全や防災防犯に関する指導の充実

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
進んで学ぶ子	一人ひとりがよくわかり、生涯に渡って学ぶ楽しさを感じる授業の展開	・教育活動に関するアンケートでは、「授業はよくわかるか」の項目について、児童95%、保護者92%が肯定的な回答をしていた。コミュニティスクールからも、「どのクラスも子どもたちが楽しそうに集中して勉強している。先生たちもものすごく授業を工夫している。」との意見があった。さらに、一人ひとりに考えを持たせ、個の変容を見取る取組を充実させる必要があると捉えている。	・学習の定着については、家庭学習時間が少ないことが気になる。次年度は家庭学習と授業の連動を組織的に意識していく必要がある。 ・GIGA端末を活用したステップ3の授業形態及び「主体的・対話的で深い学び」となるように工夫し、児童一人ひとりの変容に一層目を向けることで確実に資質能力の育成に努める。
	GIGAスクール構想実現ステップ3における一人一台端末の効果的な利用と情報モラル教育の推進	・個々の児童のニーズに合わせてGIGA端末を活用できるようになった。自分の思いや考えを素早く打ち込んでいる。特に、高学年では、「個別最適で協働的な学び」の中の自由進度学習が頻繁に行われるようになり、児童は自分の課題に向かって集中して取り組んでいる。	・次年度も今年度同様、児童の端末の利活用を積極的に推進し、情報モラル教育も継続して実施できるよう留意する。そのために教職員一人ひとりが研修研鑽を積み、教育活動に有効活用について意識化できる環境を整え、時代に乗遅れることなく邁進していく。
思いやりのある子	一人ひとりが自分を大切にするとともに他者を大切にできるような人権尊重教育の推進【校内研究】	・3つの部会の取組として、一人ひとりが大切にされる授業づくり、互いのよさや可能性を認め合える仲間づくり、安心して過ごせる学校・教室づくりが研究され、穏やかで温かい環境の中で教育活動が行われた。また、ふわふわ言葉や陶芸の子どもたちの作品も優しさや思いやりを感じるものとなった。教職員の言葉遣いや言動が優しく、丁寧だからであろう。この環境を続けていくようにする。	・積み重ねてきた人権尊重教育を学校の風土となるようにし、自他ともに大切にできているか等を日々丁寧に見取るとともに、児童の人権感覚を養い一人ひとりの行動として現れるよう進めていく。 ・一人ひとりに対する児童理解を深め、特に2次支援・3次支援が必要な児童に関する情報共有・ケース会議の充実により、児童により適切な支援ができるよう努める。
	学校という場に愛着をもち、一人ひとりが学校という社会に積極的に参加しようという意欲の喚起	・子どもたちが創る『自分たちの学校』をスローガンに掲げ、高学年を中心とする児童会活動や各学級の係活動等を充実させ、一人ひとりのよさや可能性が伸びる環境づくりに努める。 ・運動会等の全校行事についても、児童の思いや願い、発想を中心に置いて、学校生活を充実したものとなるよう進める。	・児童の発想を生かして様々な活動が展開された。また異学年交流のたてわりグループ（びかびか班）でも、各教科の学習等でも活発に取り組み、子どもたちの活躍の場が広がるとともに、かかわりの場を広げることができた。一人ひとりのよさや可能性を伸ばすためにも、教師が児童への温かいまなざしをもち、認め、励まし、支援に努めることが必要だと考える。
健康でたくましい子	体力向上を図る教育活動の工夫	・子どもたちは、体育の時間を楽しみにしており、仲間とともに全力投球、思いっきり体を動かしていた。また、休み時間をしっかり確保しているため、広い校庭でたっぷり外遊びを楽しんでいた。また、給食の残量がとても少なく、しっかりと栄養も取っている。 ・保健委員会が「健康！早寝・早起き・朝ご飯」の推奨に取り組んできた。ランチ委員会も昼の校内放送で、献立の紹介や食品の栄養のバランスについて啓蒙してきた。通年に渡る児童による委員会活動は効果的であった。	・次年度は教科部（体育部）発信で、体力向上を図ることができるよう組織的な取組となる予定である。体力や運動能力の低下が注目される中、身体の発達急速に進む小学校段階を大事にしたい。」とのご意見をいただいている。「キラキラタイム」の設定など計画的に適切な活動を設定し、さらに向上に努めることとする。
	安全や防災防犯に関する指導の充実	・定期的避難訓練等を行うとともに児童自身の振り返りをGIGA端末を活用して一人ひとりの生きる力につながるよう進める。 ・校内外の安全点検を確実に行うとともに児童の生活上での事故の未然防止と安全配慮義務に全力を尽くす。	・不審者対応訓練・垂直避難等、様々な状況を想定した避難訓練ができるよう工夫するとともに児童の振り返りによる意識化という取組を行い、児童の意識を高めることができた。 ・保護者による「朝のあいさつ・見守り活動」は、交通安全ルールを身に付けたり、交通事故防止を意識付けたりするきっかけとなり感謝している。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・子どもたちを主体にして学校教育活動を進めていることが伝わってきた。子どもたちが生き生きと堂々としていて、自信をもって今年度の活動について報告していたことが印象的であった。「自分たちが創る自分たちの学校」という意識をもって進めていることが素晴らしいと感じた。いずれも今年度の重点として進めていることだと思う。子どもたち自身が学校のよさを理解して、自分たちがやりたいことが実現できる学校であることが素晴らしい。先生たち自身も楽しみ、笑顔で子どもたちに接しているのがとてもよいと思う。これからは、背中を押して後押ししていきたい。子どもたちも先生方も自主的にあいさつをしている西御幸はアットホームな雰囲気がある。町内会の方々と取り組む「畑づくり」や地域や保護者で行う「あそびフェスタ」などができる環境が羨ましい。子どもたちも楽しみにしているので、続けて行ってほしい。	・今年度は人権尊重を基盤として教育活動を展開できるように組織編成をして重点化を図った。カリキュラムマネジメントや教育活動に関するアンケートの結果を取り入れながら「子どもたち一人ひとりが主語となる学校」をめざしてきた。日頃より、落ち着いた環境で教育活動が行われている。集団での学びを大切にしながら、「個別最適で協働的な学び」へと発展が見られ、児童たちが生き生きと学習に取り組んでいた。また、児童の多様性を豊かさや強さと捉えられるように児童にも働きかけることに尽力した。「緑いっぱい校庭プロジェクト」や「能登半島地震支援募金活動」等、児童が発想し内容を考え、プレゼンテーションをして実施できた活動だが、「学校を楽しくしたい。」「人の役にたたい。」と湧き上がる気持ちを大切に、実現できるように支援していきたい。またGIGA端末活用により、児童一人ひとりの考えが可視化できるようになり教育活動が大きく前進した。今後も継続して「主体的・対話的で深い学び」となるよう教育活動全般の工夫・改善に努めたい。 ・コミュニティスクール（学校運営協議会）が発足して2年目となる、地域を知る「地域の方に学校を知っていただくことを大切に進めてきた。地域や家庭との連携強化は児童の成長に大いに寄与できる基盤となるものである。「SDGs,持続可能な畑づくり」や「あそびフェスタ」等、保護者や地域の方々と一緒に取り組めることを工夫・協働しながら行い、「地域とともにある学校」として着実に発展させていきたい。